

第7回ランドスケープコンサルタント技術講習会

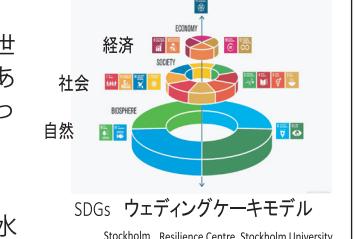
人森海がつながる夢洲をめざして

夏原由博 名古屋大学大学院環境学研究科教授

なつはら・よしひろ 滋賀県彦根市生まれ。小学6年から3年間を北海道富良野で過ごす。その時の自然の印象が心に残り生物系の大学を選び、今の仕事に就く。大阪市立環境科学研究所勤務時代に若手職員による夢洲都市計画のワークショップに参画。現在、公益社団法人大阪自然保全協会の会長として夢洲の自然をどう保全していくか勉強会や現地調査を行っている。

■SDGsを掲げた万博

SDGsウェディングケーキモデル 「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するための17の目標を構造化したもの。色々な分野の目標があるが、その基盤にあるのが自然であり、その基盤の上に社会や経済があつて17の目標が実現するという考え方。



■夢洲と大阪湾の現状

大阪湾は99%が人工海岸で東京湾よりもはるかに多い。閉鎖性が強く海水の流れが少なく、湾の奥は塩分濃度が2%、CODが5以上と海水としてはよくない状態である。海に住む生物も湾の外と奥ではずいぶん違う。

人は自然というと森を思い浮かべるが、日本にとって最も重要な自然は、湿地・草地である。府で絶滅した植物88種のうち47種が湿地植物である。半自然型海岸でも、植物が生える環境を作ると貴重な植物が育つ。舞洲の磯にはハマゴウの大群生がみられた。ただ、台風による立ち入り禁止区域がある。埋立地に自然を再生するには災害のリスクを考える必要がある。

夢洲での干潟造成計画 干潟とは潮位の干満により陸となったり海の底に沈んだりを毎日繰り返す場所。川から運ばれた有機物が堆積し栄養豊富な泥や砂地となる。カニや多毛類が生息し、それらを食べに魚や水鳥がやってくる。人間も潮干狩りをする。このような異なる環境が緩やかに接する場所(エコトーン)が、自然再生にとっては重要。都市の垂直護岸ではこのような推移帯をつくることができない。「夢洲では総面積30haの砂浜や人工磯、干潟などを機能的に組み合わせることにより、生物が生育しやすいおいのある風景を創出し、自然環境と調和した豊かな海浜を整備する。」(北港南海浜整備事業)

今年の現地調査で夢洲には多くの生物が生息していた。池には雨水が溜まり水鳥の休息場となり、咲洲か舞洲のせせらぎで繁殖したと思われる開けた場所には来ないオニヤンマもみられた。埋立地は海の中で連続はしていないが、飛来する鳥や昆虫にとってはネットワークで結ばれるハビタットとして重要である。

■都市の生態系とグリーンインフラ

生態系サービス 我々は自然から色々なサービスを受け取って暮らしている。このサービスを上手く維持しているのが生物多様性である。

みどりの精神的な効果 自然体験が多い子供ほど自己肯定感が強い、緑地や海岸で数時間過ごすと健康であったり幸福を感じる割合が高くなる、森林の多い地域での医療費が減少するなど我々にとっては有利な報告がある。

■第3世代のグリーンインフラ グリーンインフラは都市部で活用することが重要である。

例:シンガポールウォーターシティ(レンガーデンの多面的な活用)、NYハンタースポイントサウスパーク 生態系管理入門 生物にとって緑地は大きいほどよく、つながっていることが大切。自然は変化するので、ほどほど管理とする。公園をつくる時にはその場所がどういう場所なのかが重要。自然は動的平衡であり、安全とかく乱の両方が必要。変化は緩やかにしモニタリングしながら計画を作り直し順応的管理を行う。

■関わった自然再生の事例

万博記念公園

: 2025大阪関西万博のモデルになるか



大阪南港野鳥園

: 湿地再生と順応的管理(自然と長くつきあう仕組み)

京都いのちの森

: 植生遷移と動的平衡(生物相を持つ生態系を育成する)

■大阪関西万博に望まれること

夢洲にはすでに多くの生き物が暮らしている。誰一人取り残さないという理念を掲げているので、生物を取り残さない配慮が大事。進歩と持続性を考えると地球の生態系を支えているのは、人間や靈長類ではなく、「進歩」していない微生物。つながりや変化が自然を理解するキーワードである。自然を上手に活用しモザイクの配置にする。ほどほど順応的管理を行う、自然のつながりや変化を考えたデザインをつくって欲しい。

「日本には海から見る聖地がたくさんある。海と陸の生活は密接に関連しあって、それぞれに聖なるものがいる。」(※海辺の聖地 上田篤著) 都市は変わっていくのがあたりまえだが、変わらないものもある必要。大阪の湾岸部の海岸も生物の生息地として、聖なるものとして守っていかなければいけないのではないか。

※豊富な調査データや国内外の事例をもとに、「2025年大阪関西万博会場夢洲の自然の特徴と、自然との共生社会という観点から大阪関西万博に望まれること」を話題に自然の再生や人と自然のつながりに関して、ご講演・意見交換をいただきました。

編集・構成 山崎由記美

一般社団法人 ランドスケープコンサルタント協会 関西支部

私たち、自然や緑と一緒にいたる職能団体です。

正会員 (50音順) 25社

株式会社 荒木造園設計	連絡先電話番号 (072)761-8874	株式会社 市環境ランドスケープ (06)6946-9588
株式会社 荒谷建設コンサルタント	連絡先電話番号 (082)292-5481	株式会社 市環境観設計 (06)6228-3388
株式会社 エヌ環境計画室	連絡先電話番号 (06)6373-4117	株式会社 中根庭園研究所 (075)465-2373
株式会社 オオバ大阪支店	連絡先電話番号 (06)6228-1354	株式会社 ニュージェック (06)6374-4901
株式会社 環境設計	連絡先電話番号 (06)6261-2144	株式会社 ハシフィックコンサルタント(株)大阪本社 (06)4799-7311
株式会社 環境緑地設計研究所	連絡先電話番号 (078)392-1701	株式会社 復建調査設計 (082)506-1181
株式会社 環研	連絡先電話番号 (06)6306-2481	株式会社 ヘッズ (06)6373-9369
株式会社 キタイ設計	連絡先電話番号 (0748)46-2336	株式会社 リアライズ造園設計事務所 (06)6941-1151
株式会社 空間創研	連絡先電話番号 (075)353-6337	株式会社 緑景 (06)6763-7167
株式会社 現代ランドスケープ	連絡先電話番号 (06)6203-1270	株式会社 LAT環境クリエイト (082)273-2605
株式会社 公園マネジメント研究所	連絡先電話番号 (06)6947-6522	株式会社 賛助会員 (50音順) 3社
株式会社 スペースビジョン研究所	連絡先電話番号 (06)6942-6569	株式会社 大和リース (06)6229-7906
株式会社 総合計画機構	連絡先電話番号 (06)6942-1877	株式会社 花豊造園 (075)341-2246
株式会社 地球号	連絡先電話番号 (06)6945-7566	株式会社 ユニソン西日本 (072)829-0606
株式会社 辻本智子環境デザイン研究所	連絡先電話番号 (0799)72-0216	

連絡先電話番号

協力会社 (27社)

公園施設	12社	連絡先電話番号	舗装資材	5社
株式会社 アボック	連絡先電話番号 (06)6942-8466	株式会社 佐藤渡辺近畿支店 (072)920-6556		
株式会社 上屋敷工業	連絡先電話番号 (0776)56-2310	株式会社 太平洋ブレコン工業大阪支店 (06)6344-6212		
株式会社 コトブキ関西支店	連絡先電話番号 (06)4801-8265	株式会社 太陽エコプロックス (06)6466-6751		
株式会社 サイト	連絡先電話番号 (092)925-9858	株式会社 ニットー大阪オフィス (06)6325-3551		
株式会社 ザイエンス	連絡先電話番号 (072)439-4413	株式会社 日本興業関西支店 (06)7173-2790		
株式会社 サカエ西日本支店	連絡先電話番号 (06)6325-2288		石材	1社
タカオ園大阪営業所	連絡先電話番号 (06)6397-5266	株式会社 中村石材工業 (06)6571-1206		
株式会社 タンデム	連絡先電話番号 (072)986-1880		施工	1社
株式会社 中村製作所	連絡先電話番号 (047)330-1111	株式会社 橋祥建設 (0794)89-8288		
株式会社 日本トップ工業	連絡先電話番号 (06)6769-6212		照明	1社
株式会社 ラスコジャパン	連絡先電話番号 (0794)86-0081	株式会社 大光電機 (06)6222-6260		
H.O.C(エッチ・オー・シー)	連絡先電話番号 (06)6395-2247		管理施設	3社
株式会社 朝日スチール工業	連絡先電話番号 (06)6244-1910			
株式会社 帝金	連絡先電話番号 (06)6252-3691			
ヨシモトホールド大阪支店	連絡先電話番号 (06)6372-1717	株式会社 ダイビス (06)6312-6451		
株式会社 水景施設	3社			
株式会社 フィアープラン	連絡先電話番号 (06)6969-5831			
株式会社 宇都宮製作所	連絡先電話番号 (06)6494-8997			
株式会社 日之出水道機器	連絡先電話番号 (06)6446-2687			

事務局

〒530-0014

大阪市北区鶴野町4-11-1106

TEL:06-6373-4117 FAX:06-6373-4617

発行人

一般社団法人

ランドスケープコンサルタント協会 関西支部

関西支部長:西辻俊明

発行

一般社団法人

ランドスケープコンサルタント協会 関西支部

http://www.cla-kansai.jp

編集人

関西支部広報委員

委員長:莊田隆久

副委員長:増田将典

編集委員:福田祥子

山崎由記美

友國慎也

坂田奈美子

小野隆

印 刷

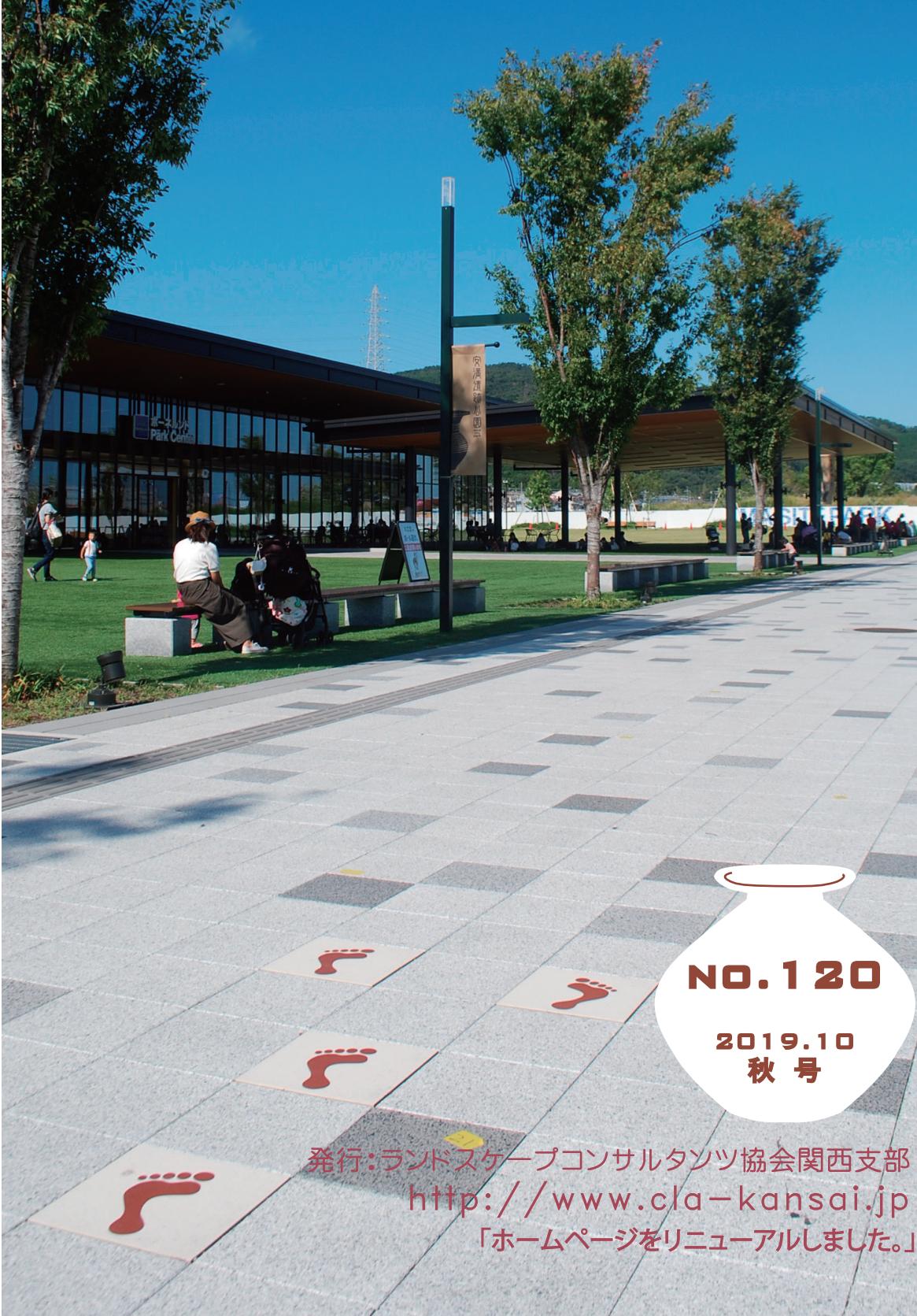
(株)ダイビス

R 100

会員登録料100円(会員登録料)



特集:都市の魅力とみどりの力



街路景観を高めるみどりづくり

~京都市の二段階剪定と雨庭~

はじめに

京都市は日本を代表する歴史・文化都市として、古くから継承してきた景観を保全し、都市魅力を高める京都らしい景観づくりが行われている。京都の景観施策と言えば、景観条例等による規制や歴史的町並み整備が思い浮かぶが、みどり分野においても京都らしさを高める景観づくりが行われている。その代表的な事例として、二段階剪定と雨庭について紹介する。

二段階剪定について

京都市では、2011年度から京都の伝統的な透かし剪定技術を活かした落ち葉量の減量と美しい紅葉景観の両立を図る京都市独自の「紅葉街路樹二段階剪定」を行っている。二段階剪定とは、京都のまちなみ景観を美しく演出するために、落ち葉を減らしつつ紅葉を残す剪定手法である。具体的には、紅葉前に枝葉を5割程度残す軽剪定を行い、落ち葉後に骨格形成を目的とした本格剪定を行うことで、紅葉を残しつつ落葉の軽減も目指したものである。2018年度からは、紅葉街路樹に対して、紅葉前に樹幹外郭線をコンパクトにしながら枝葉を1~2割程度残して剪定し、若干の紅葉を残しつつ、落葉の軽減を図る「はんなり剪定」も実施されている。

二段階剪定は通常の剪定よりコストが多くかかるが、街路樹風景が都市の骨格となり、京都全体の景観向上に寄与している。